

防潮堤問題と学生の学び

気仙沼と関東での「椿の森づくり」を事例に



廣重 剛史 (HIROSHIGE, Takeshi)

目白大学社会学部専任講師

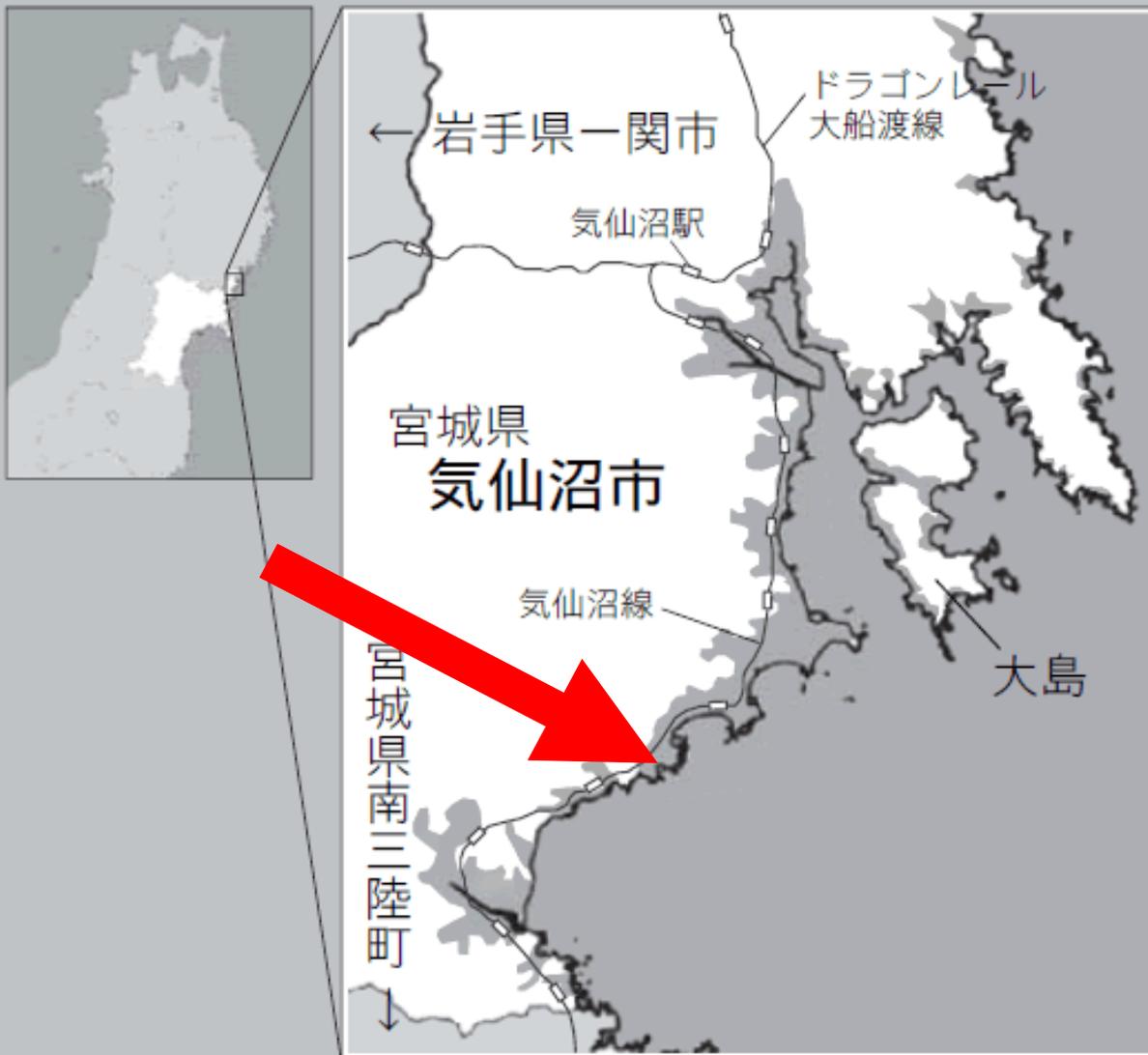
兼、早稲田大学ボランティアセンター (WAVOC)

「海の照葉樹林とコミュニティづくり支援プログラム」コーディネーター

目次

- 1、前浜椿の森づくり
- 2、防潮堤問題との関わり
- 3、学生の学び

1、前浜椿の森づくり

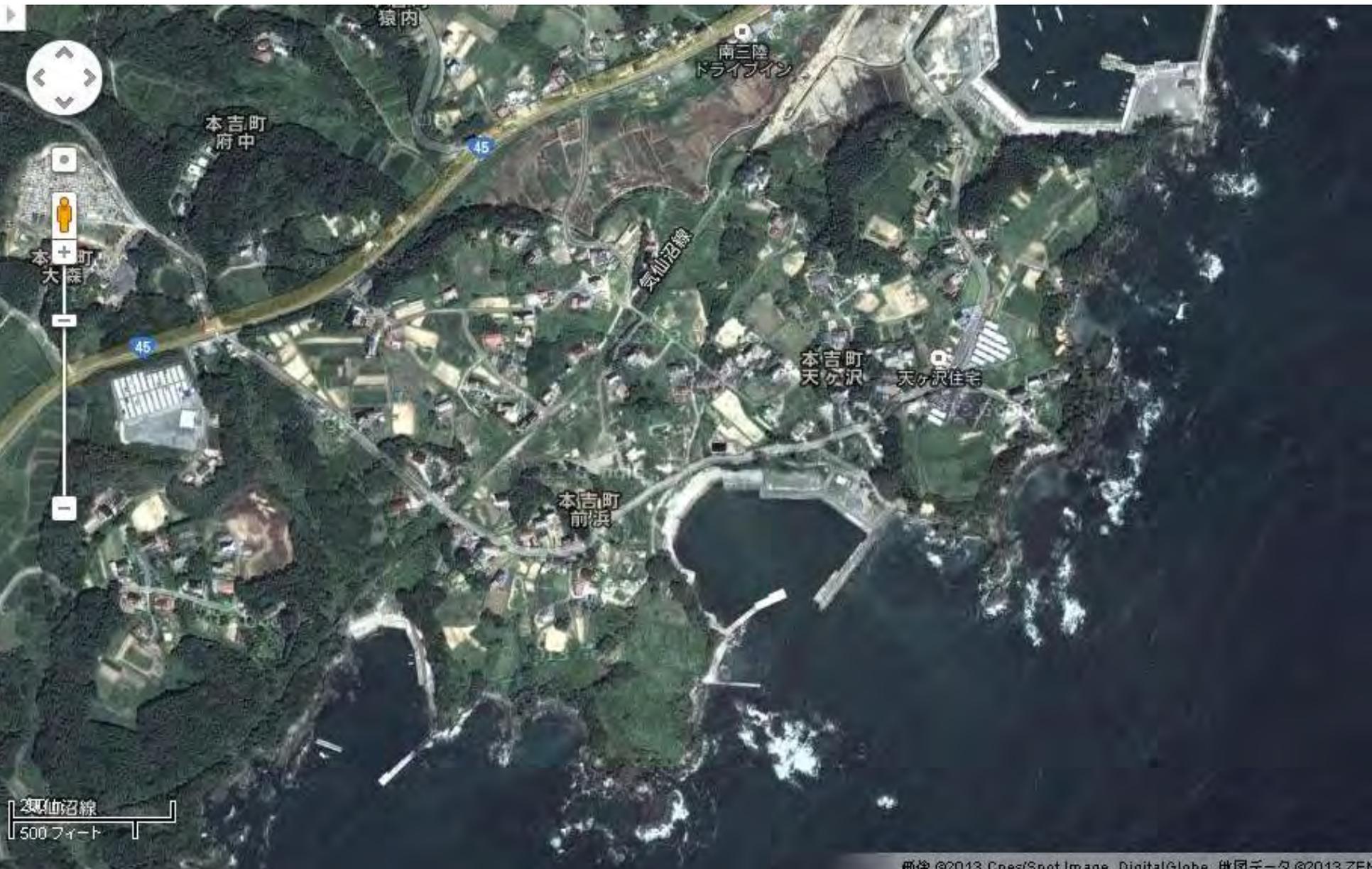


右上は気仙沼市における津波の届いた地域。気仙沼線は、気仙沼駅以南において復旧の目処は立っていない。

(NPO 法人宮城資料ネット作成の以下の地図より作成：

<http://www.hanadataz.jp/td/saigai2011/kesennuma/kesennuma.htm>)

気仙沼市本吉町前浜地区



前浜の概況

(宮城県気仙沼市前浜地区)

前浜地区・・・世帯数126、人口450人。東日本大震災での死者行方不明者9名。

特徴・・・地域振興会の中心メンバーの多くが漁業や海運業等、海で生計を立てていた方が多い。また、その多くが「大谷大漁唄い込み保存会」メンバーを兼ねる。前浜では多くの家庭が自前の小船を持ち、季節毎にアワビやウニなどを採取し、漁協に卸して副収入を得ている。2000年以降、毎年3月に地域住民の文化祭「前浜おらほのとおき」が開催され、震災後には、その運営メンバーが避難所運営に携わり、効率的にこれを運営。流失した自治公民館「前浜マリンセンター」を住民主導で再建するなど、住民活動が活発な地域。





2013/08/25 12:12

佐藤俊夫さん宅土手



「前浜椿の森プロジェクト」

——地域の自然を利用し、魅力ある地域を作るプロジェクト

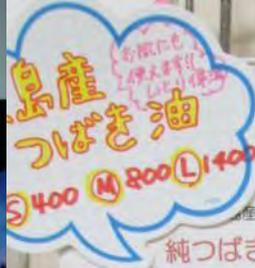
- ・震災後、避難所で避難住民が地域の将来像を語り合っているときに、前浜で親しまれてきた「椿を植えよう」と発案されたのがきっかけ。
- ・同地区出身の支援者である千葉一先生(東北学院大学等講師)が、気仙沼市震災復興市民委員会委員の立場から、この案をより一般化した**防災自然公園ベルト「海の照葉樹林プロジェクト」**として、市民委員会の復興プロジェクト化。
- ・報告者がこの計画を知り、千葉先生と連絡を取るなかで、早稲田大学ボランティアセンターの支援プロジェクトとして企画し、採用。2012年7月から活動開始。
- ・被災地で進む防潮堤建設計画に対するオルタナティブの一つとして、防潮堤計画の見直し運動と連携しながら、Facebookなどを通じて、少しずつ活動の輪が広がる。
- ・前浜の方たちも、プロジェクト推進のため一般社団法人「前浜おらほのっておき」を立ち上げ、2015年度から本格的に計画を推進中。植樹地の造成から地域の竹や耕作放棄地の雑木を利用する、手作業を基本とした作業を重視。



2012.02.12 09:39



2012.02.12 10:03



純つばき油

古来(800年以上前)から、愛用されて来たと言われる、貴重な天然油です



- 《商品名》 純つばき油
- 産地名 気仙沼大島
- 内容量 70ml
30ml
10ml
- 消費期限 製造日から180日以内
- 製造日
- 保存方法 冷蔵所に保存してください、
- 《用途》 毛髪用、スキンケア用、

《使用方法》

《毛髪用》 シャンプーの後、髪が乾かない内に、精油適量(3~4滴、髪量による)を頭皮と毛髪に軽くすり込む様につけてから、ブロウしてください。髪がしっとりして、滑らかになります。お出かけ前に、2~3滴付ける事で、白髪を目立たなくします。

《スキンケア用》 お風呂上りに、顔や、手、足に、1~2滴、薄く延す様に付けると、お肌がサラリとします。手足のひび割れ、乾燥日光皮膚炎には、たっぷり塗り込んでください。

《食用油として、別途、商品をご用意しております。お問い合わせ下さい》
気仙沼大島の自然が育んだ《カメリアオイル》をお試し下さい。
榎屋食品株式会社では、種の種を買い求めて居ります。情報をお寄せ下さい。



榎屋食品株式会社
気仙沼市練町 2-1-2
TEL. 0226-23-4071

2013/04/21 18:28



2013/06/01 15:47



2012.02.12 10:18

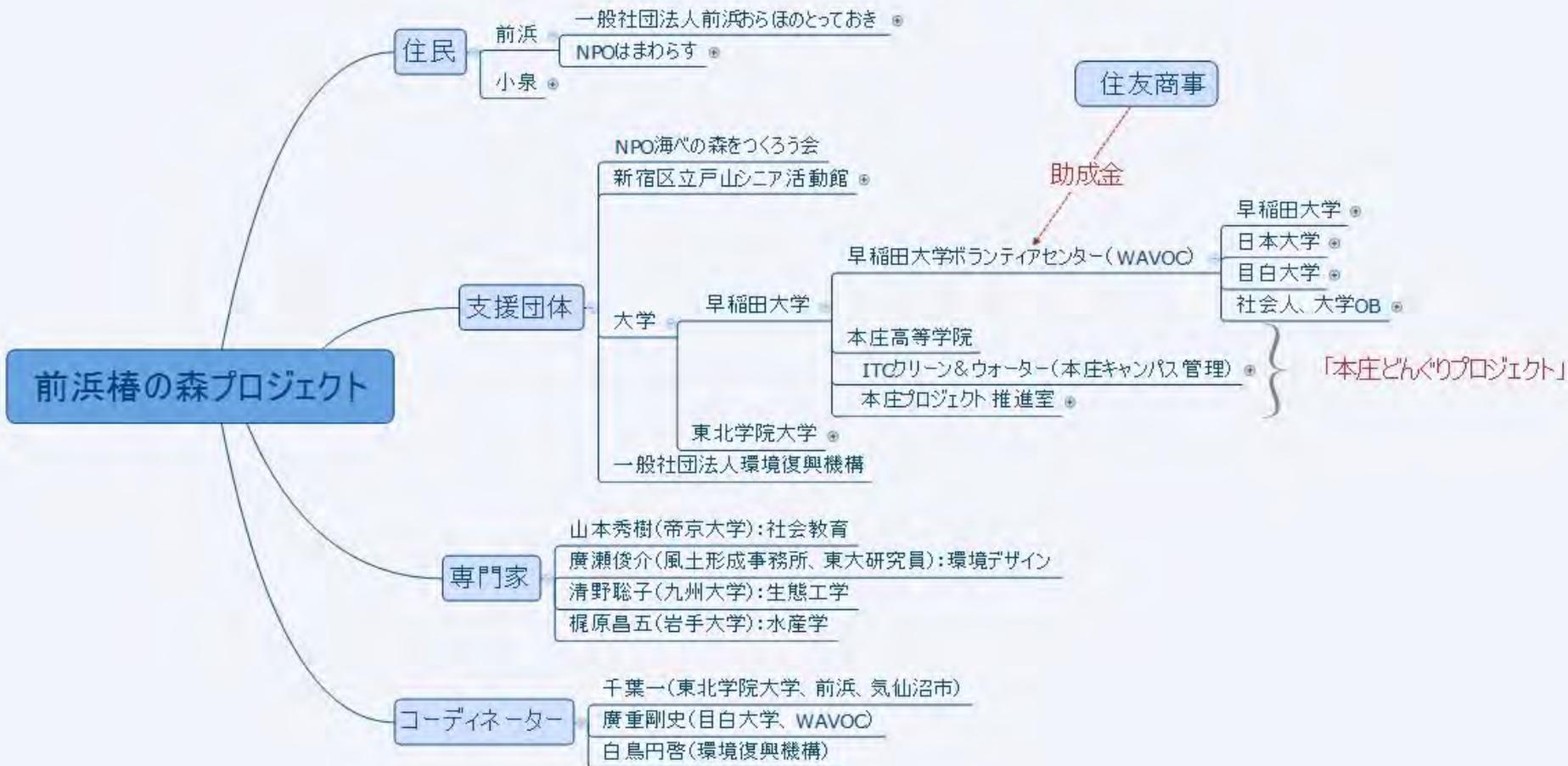
気仙沼市震災復興市民委員会プロジェクト

- 1 気仙沼市緊急産業復旧プロジェクト
- 2 世界一の魚市場プロジェクト
- 3 造船・船用工業界の集約と連携（造船団地）プロジェクト
- 4 環境と防災に配慮したフォレストベンチ工法活用プロジェクト
- 5 気仙沼市 再生エネルギー導入プロジェクト
- 6 三陸リアス・ジオパークプロジェクト
- 7 セントラルパーク（ユニバーサルデザインの公園）整備プロジェクト
- 8 商店街および中心市街地再生プロジェクト
- 9 特区活用漁業再生振興プロジェクト
- 10 文化芸術芸能再興プロジェクト
- 11 防災自然公園ベルト「海の照葉樹林」プロジェクト
- 12 水源の分散化（安全な水辺づくり）プロジェクト
- 13 復興住宅整備プロジェクト
- 14 企業・大学・研究機関誘致強化プロジェクト
- 15 観光メニュー開発プロジェクト
- 16 NPO・NGOとの積極的協働プロジェクト
- 17 情報発信改革プロジェクト
- 18 復興シンボルイベント開催プロジェクト

期待される効果

- ・ 灰色のコンクリートの壁に囲まれた津波防災ではなく、風光明媚な三陸の自然を活かした津波減災により観光産業に貢献
- ・ 火災の拡大延焼を防ぐ**防火帯**の役割
- ・ 住民が避難する学校や病院の周囲での照葉樹林づくりも重要
- ・ 三陸の自然植生の復元によって、**市民の憩いの場**の提供。
- ・ 同時に、**探検・体験学習、環境教育の場**として子供たちに開放
- ・ 津波モニュメントを抱く「**鎮魂の森**」、津波の教訓を引き継ぐ**防災教育の場**
- ・ 津波と対峙しながらも海と共に生きる三陸沿岸の人々が造り上げる**自然と文化の複合的な遺産**として将来位置づけられる。
- ・ 気仙沼市をモデルケースとして発信し、照葉樹林文化の北限としてのシンボリック照葉樹の森が、福島から青森夏泊半島まで続く...

プロジェクトのネットワーク

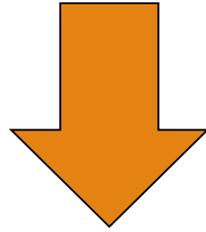


WAVOCとは？

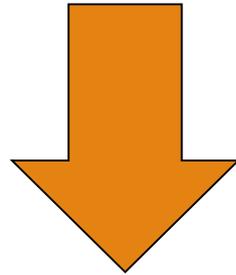


- ・早稲田大学の社会貢献活動の推進役として2002年に設立。
- ・①学生への科目提供、②学生主体のボランティア・プロジェクト支援、③イベント・公開講座の開催という3つの柱で活動
- ・東日本大震災後は、延べ5000名以上の学生・教職員ボランティアを、被災地を限定せず広域に展開し、派遣。
- ・活動内容は、現地のニーズの変化にあわせて、泥かき・瓦礫撤去、仮設住宅支援、音楽・スポーツ交流、学習支援、観光復興支援など、学生の特性を活かした多様。

震災ボランティアの減少

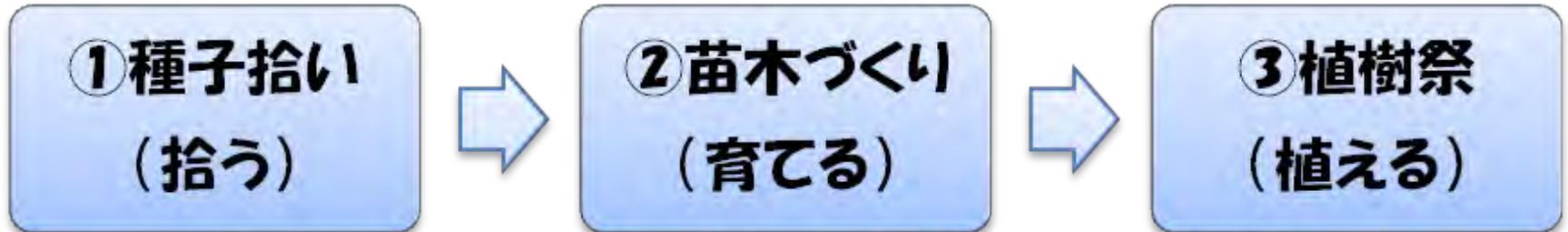


活動の整理、選択、集中



気仙沼「海の照葉樹林プロジェクト」
の支援を、長期の取り組みとして継続

これまでの活動の柱



⇒現在、東北地方の広葉樹の苗木生産量は約70万本のみで不足(林野庁)。そのため現地で集めた種子を関東で「里親」として育てることで、種苗場を広げることが可能。この点に関して、林野庁の「海岸防災林の再生会議」でも、**広葉樹の苗木供給体制の構築**の必要を提言。

⇒現在、新宿区立**戸山シニア活動館**で育苗中

① 種子拾い
(拾う)



② 苗木づくり
(育てる)



③ 植樹祭
(植える)

採取の様子(気仙沼市前浜)





採取の様子(気仙沼市前浜)

2013/06/01 11:06



採取だけではなく、
地域の自然を学び、
地域の方々のお話を聴き、
地域の抱える課題を学ぶ



早稲田大学キャンパス内での育苗 (2012年7月～2015年1月まで)



① 種子拾い
(拾う)



② 苗木づくり
(育てる)



③ 植樹祭
(植える)





2013/05/27 13:42

早稻田育苗地



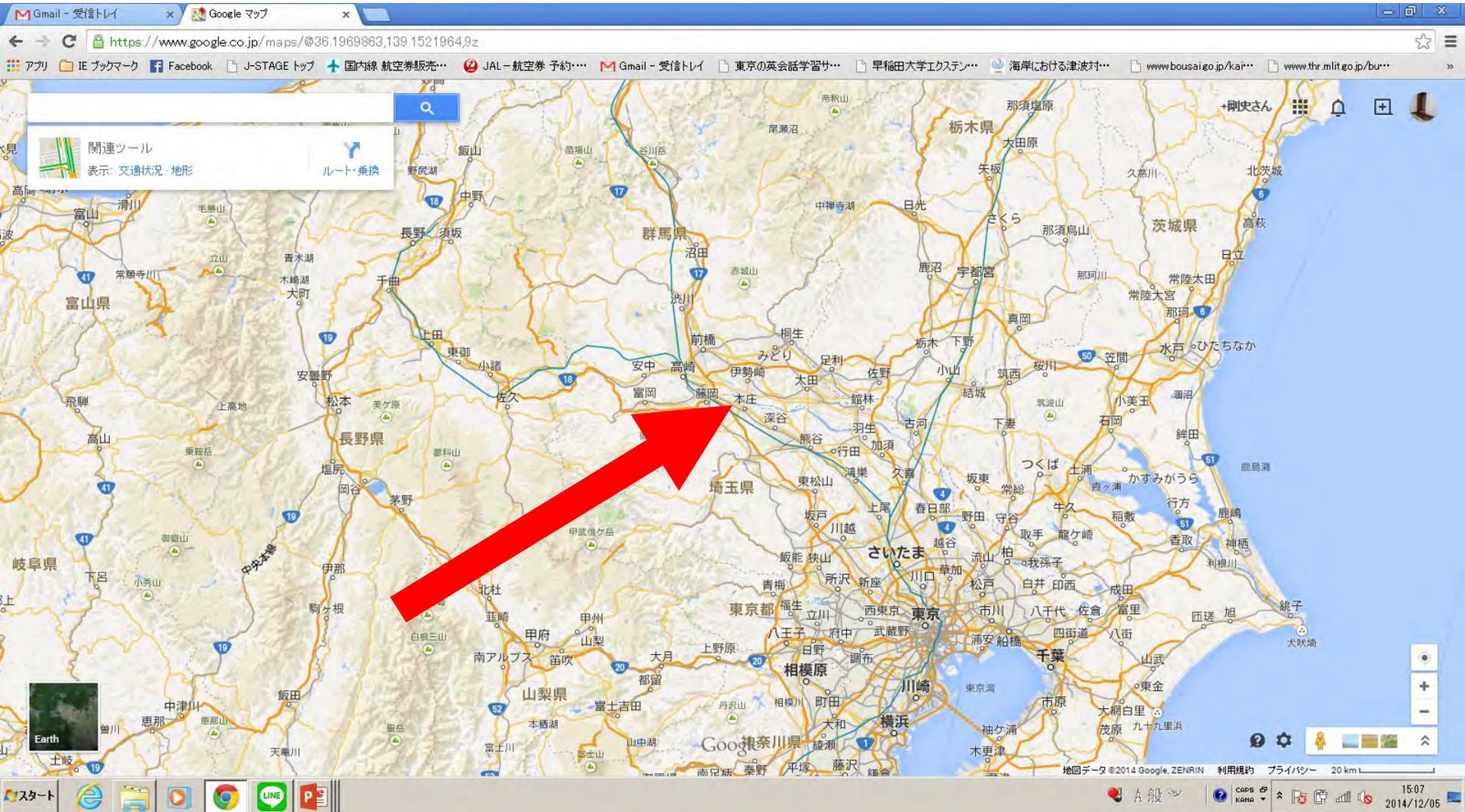
早稻田育苗地

2013/05/27 13:41



2013/05/27 13:41

早稻田育苗地



早稲田大学附属本庄高等学院での育苗 (2013年6月～)









気仙沼への苗木の搬出(2015年11月)





AKANO SYSTEM

TNK 444

ISUZU

安全運転



日本フルハップ震災復興支援事業

前浜に
椿を植えよう!

「前浜椿の森」プロジェクト

一般社団法人
前浜おらほのどっぺおき

東日本大震災津波到達地点



早稲田大学

戸山シニア活動館での活動

—育苗を通じた地域福祉の向上—



新宿区の人口と高齢化率

- (人口)

321,172人 1世帯1.62人(2013,1,1)

- (高齢化率)65歳以上

新宿区	19.4%(2013年)		
全国	23.4%(2011年)	⇒	38.8%(2050年)
米国	12.9%(2010年)	⇒	21.6%(2050年)
ドイツ	20.5%(2010年)	⇒	32.5%(2050年)
戸山ハイツ	49.9%(2013年)		

約3,000世帯 5,682名 15歳未満 5%

地域課題と今後の課題①

戸山ハイツ

- 高齢者の2極化(参加と閉じこもり)
- 孤独死(見守り活動)
- 自治会役員の高齢化
- 高齢化とコミュニティー

地域課題と今後の対応②

地域コミュニティの推進

- 団塊世代の地域デビュー
- ボランティア活動の推進
- 多世代交流の推進
- シニア世代が地域の支え手に

第一回説明会の模様





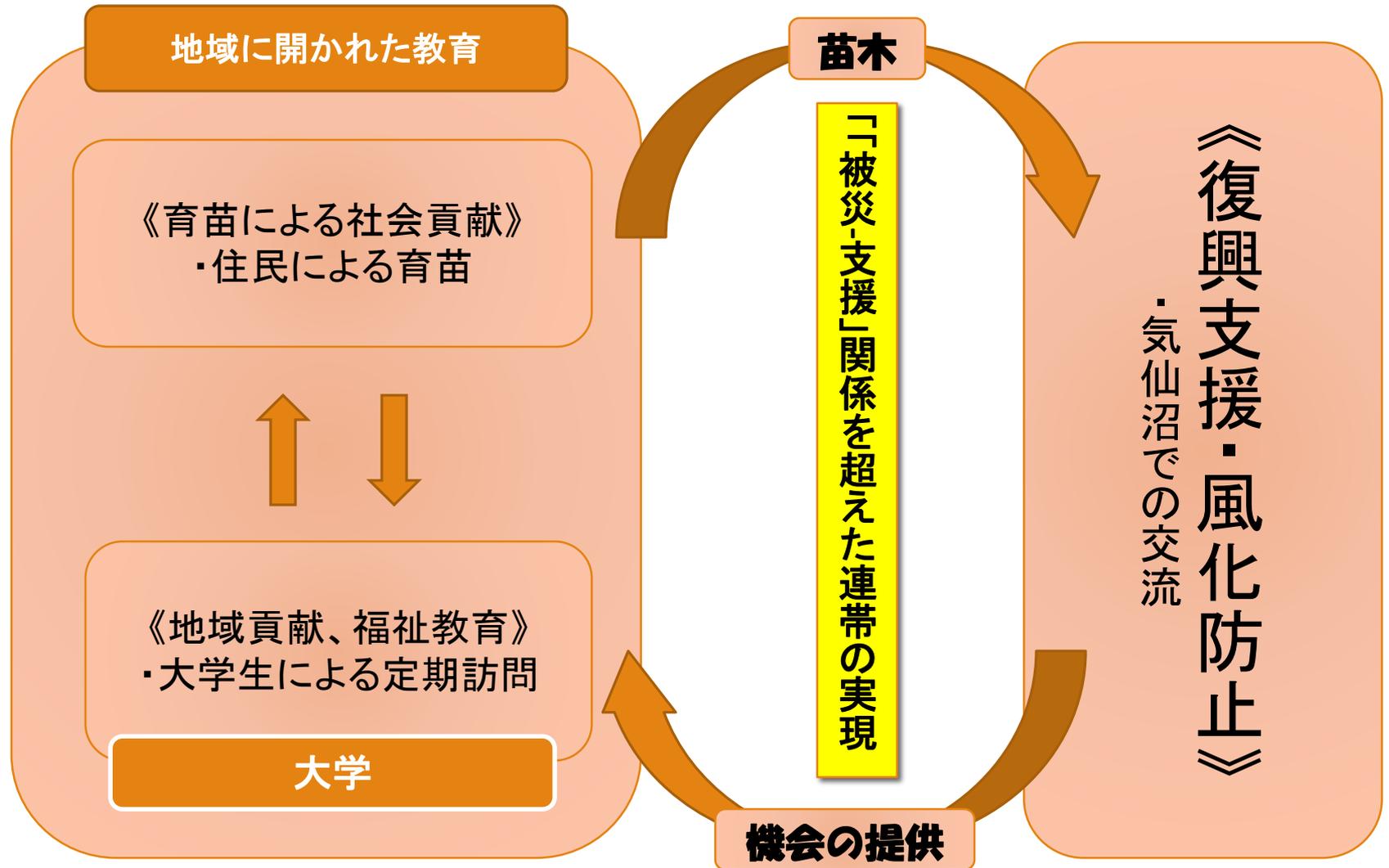


交流イベント一覧(一部)

年	月	日	活動内容
2014年	5	31	事前調査(まちあるき)
	10	4	戸山シニア活動館にて育苗開始
	11	2	早稲田大学文化祭にて企画展示および千葉先生講演会。戸山から4名参加。
2015年	2	7	大隈会館の苗木をすべて戸山シニア活動館へ移動
		10	シニア活動館にてシンポジウム「椿がつなぐ被災地との絆」。30名、うち前浜から2名参加。
		21	シンポジウム「防災ESDシンポジウム―これからの持続可能な地域の防災を考える」
	3	20-23	高大合同気仙沼ツアー(32名、うち戸山2名参加)
	7	25	大学生4名、戸山夏祭り参加
	8	5	映画「赤浜ロックンロール」上映会に前浜(菊地氏、千葉氏)、戸山2名、大学生参加
		7	シニア活動館にて山本先生講演会(15名)
	9	1-3	高大合同気仙沼ツアー(34名、うち戸山3名参加)

※その他、戸山の方々と大学生は月1回程度定期ミーティングを開催

戸山地区での活動の意義



植樹活動の様子

2014年9月～

植樹地造成前

































二回目の植樹

ツアー詳細

2015年9月1日～3日

参加人数35名

戸山シニア活動館3名(滝口館長、小澤さん、森田さん)、

早稲田大学本庄高等学院14名、早稲田大学9名(卒業生2名)

目白大学4名、東京工科大学1名、白鳥さん(環境復興機構)

教職員3名

・行程:防潮堤見学→前浜植樹地造成、流しソーメン→夜・映画上映会→翌朝・植樹→岩沼市千年希望の丘





























未来予想図



未来予想図



未来予想図



2、防潮堤問題との関わり

防潮堤情報サイト

防潮堤.net
http://sea-wall.net

ホーム
Home

趣旨
statement

防潮堤情報
Sea Wall
Information

防潮堤NOW!
Sea Wall Now!

防潮堤関連リンク
Link

お問い合わせ
Contact Us



防潮堤関連情報

防潮堤に関する専門的な情報を提供します。

[詳しくはこちら](#)

防潮堤Now!!

各地の防潮堤に関する情報最新情報を配信しています。

[詳しくはこちら](#)

防潮堤関連LINK

防潮堤関連のURL情報を集めました。

[詳しくはこちら](#)

お知らせ

RSS

「防潮堤関連リンク」に多くのリンクを追加しました

2016年1月9日

現在防潮堤関連の公的な情報や研究成果についてリンクにて、資料を閲覧できるように整備しています。また皆様からの …

気仙沼市内湾の防潮堤





気仙沼市野々下の防潮堤







気仙沼市小泉の防潮堤





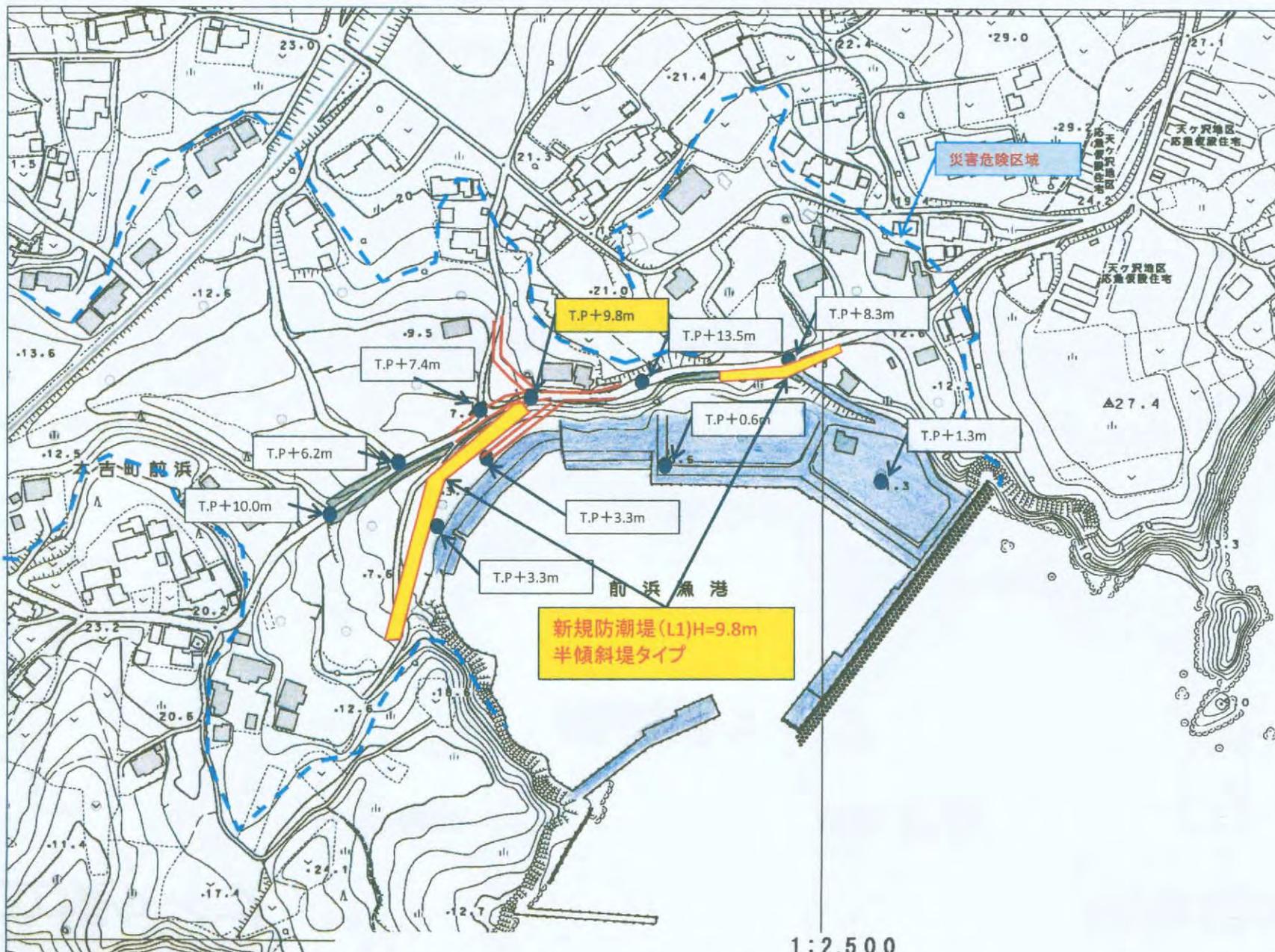
岩沼市千年希望の丘と防潮堤







前浜漁港 海岸防潮堤計画(案)



3、学生の学び

教育・環境・福祉・防災の一体的取り組み



椿の森づくりの意義1

震災の風化を防ぎ、未来のいのちを守る！

育苗にかかる数年間が「震災を忘れない」。

防潮林づくりで「未来のいのち」を守る。



椿の森づくりの意義2

植樹を通じた地域活性化！

- ・気仙沼と関東の地域間交流の活性化
- ・地域再生・コミュニティ支援などへの広がり



椿の森づくりの意義3

自分たち自身の成長のため！

生態学や環境問題への理解を深める。

地域の現状と人びとの生活や文化を学ぶ

自らの住む地域を見直すきっかけに



防潮堤問題を通じて見えてくる社会的課題

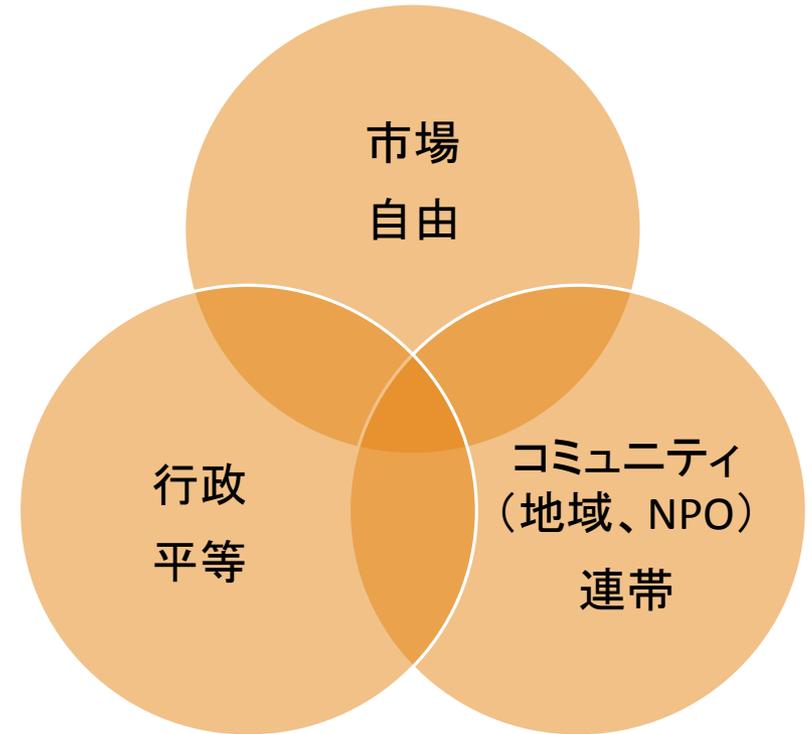
	市場セクター	公共セクター	共生セクター
担い手	企業、個人	行政	地域コミュニティ、NPO等
規範	自由	平等	連帯
機能	自助(効率)	公助(補完)	共助(互酬)
偏重の弊害	格差拡大	税負担増	心理的拘束意識

田村正勝編著『ボランティア論』(36頁)より筆者作成

コミュニティの2つのタイプ

	担い手	形成原理	連帯の特徴
地縁型	町内会、自治会	地域性、共同性	同質集団内部の結合
テーマ型	NPO、ボランティア	自発性、公共性	異質集団間の橋渡し

大野正英,2014「社会システムとしての地域コミュニティ」をもとに筆者作成



身体性(体験)を媒介にした、生活者の「意味」の目線からの学び



経済

コミュニティ・文化

生態系・自然



ハイデガー『存在と時間』第15節

森は山林であり、山は石切場であり、河は水力であり、風は「帆にはらむ」追い風である。発見されている「環境世界」とともに出会うのは、このような形で発見される「自然」なのである。そのあり方は、用具的である。この用具的存在様相を無視して、自然そのものを、たんにその単純な客体性において発見し規定していくことも可能である。けれども、かような自然発見の態度では、「生きとし生けるものの営み」としての自然、われわれを畏怖させる自然、風光としてわれわれの心をとらえる自然には、接することができない。植物学者の植物は、畦道に咲く花ではなく、地理学者が確定した河の水源地は、「谷間の泉」ではない。



おわりに 「椿の学びづくり推進協議会」の設立



椿の学びづくり推進協議会設立記念

椿がひらく未来

東日本大震災から5年、今私たちに出来ること

日時 3月13日(日) 10:00~16:00

場所 新宿区立戸山シニア活動館

主催 椿の学びづくり推進協議会

共催 戸山シニア活動館
一般社団法人前浜おらほのとおき
一般社団法人環境復興機構

問合せ <http://env-reconst.org/>

10:00 地域防災ワークショップ
村山 恭太氏 地震を考える会代表、新宿区防災区民リーダー

12:00 炊き出し

13:00 オープニング
マザーアースプロジェクト有志による音楽
主催者・来賓挨拶

14:00 気仙沼前浜より
千葉 一 椿の学びづくり推進協議会 代表、(一社) 前浜おらほのとおき

15:00 椿の学びづくり推進協議会の活動報告
廣重 剛史 椿の学びづくり推進協議会 事務局、目白大学専任講師
被災地沿岸部の現状～防潮堤の現在を踏まえて
白鳥 円啓 椿の学びづくり推進協議会 事務局、(一社) 環境復興機構

16:00 終了予定

入場無料

東京メトロ副都心線西早稲田駅エレベーター出口徒歩約4分
東京都新宿区戸山2-27-2

3月から参加者を募集します。詳細は廣重まで

hiroshige@mejiro.ac.jp



ご清聴ありがとうございました
